

# 英国の自治体はコロナ禍にどう立ち向かっているのか ～ LGA 年次総会ウェビナー参加報告～

(一財)自治体国際化協会ロンドン事務所

## LGA 年次総会とは

Local Government Association (LGA) は、日本の地方 6 団体（全国知事会・全国市長会・全国町村会・全国都道府県議会議長会・全国市議会議長会・全国町村議会議長会）にあたり、イングランドの 339 の地方自治体のうち、335 の自治体が加入している協議会です（ウェールズの 22 の自治体も、ウェールズ LGA を介して加入しています）。

LGA は毎年、各自治体の事例を発表し、意見を交わす年次総会を開催しており、各自治体関係者の交流の場にもなっています。クレアロンドン事務所からも例年参加していますが、2020 年度は新型コロナウイルスの影響で 6 月 30 日から 7 月 8 日まで、7 日間のオンライン開催となり、例年とは異なる形で参加することとなりました。

今回の LGA 年次総会のテーマは、「Re-thinking local」。新型コロナウイルスをきっかけに、地域について今一度見直すことで、今後の自治体運営にプラスに働くようなヒントとなる事例が多く発表されました。

参加したウェビナーの一部について、ご紹介します。

## 基調講演：未来へのビジョン

LGA 年次総会の最初のウェビナーは、LGA 会長らによる基調講演でした。

LGA 会長である James Jamieson 氏のスピーチでは、新型コロナウイルスのパンデミックが地方自治体に対してこれまでにない挑戦を課していること、英国の地方自治体は勤務態勢の再編を行いながら、道路工事といったインフラの整備やごみ収集、ホームレスなどの社会的弱者保護といった必要不可欠なサービスを継続して提供するための体制を急速に整備し、パンデミックに機敏に対応してきたことに感謝が述べられました。この迅速な取り組みは住民にも評価されており、世論調査によ

れば、住民の 71% が地域の自治体を信頼しているという結果が出ています（2 月から 12 ポイント増）。また 75% の住民が、自分たちの地域の自治体の施策に満足しており（2 月から 12 ポイント増）、87% の住民が自分の住む地域に満足しているとの結果が出ていますと報告されました。

また、新しい生活様式に適応し、持続可能な経済の再構築、ソーシャルケアの維持、学校の再開等を地域主導で進めるためには、地方自治体にさらなる権限とリソースが必要であるとし、これが今回の年次総会にあたって作成された討議資料「Re-thinking local」の主題であるとされました。今後 LGA は中央政府との協議を通じ、中央政府からの権限と財源の移譲を進め、地域主導での国民の生活の回復をさらに加速させていくと述べられました。



討議資料「Re-thinking local」の表紙／出典：LGA

## ウェビナー：コロナ禍に学ぶ

開会当日の午後に開催されたウェビナーは、新型コロナウイルス感染症の拡大における対応と、そこから学んだことをテーマとして行われました。

ワトフォード市の Donna Nolan 氏からは、同市での事例の紹介と、コロナ禍を通して学んだことについて発表がありました。

事例の 1 つ目は、職員への指針となる 6 つの原則を示したことです。①他者に気を配る、②リーダーシップを柔軟に運用する、③自治体を柔軟に運営する、④長期的な目線で考える、⑤よく考えて質問する、⑥コミュニケーションを管理する、の 6 つで、自治体としての基本的な姿勢と、取るべき方向性の原則を改めて可視化することが、職場に良い影響を与えたそうです。

2 つ目は、Watford Helps (募金)、Watford Ahead

(ビジネスのサポート)、Watford Together (文化、スポーツで困難をより充実して乗り越えるためのプラットフォーム) という3つの事業を実施し、地域のニーズを吸い上げ、必要などころに手を差し伸べる体制を作ったことです。

Donna Nolan氏は、コロナを通して学んだこととして、コミュニティや同僚の声を聴く必要性や、何が目的で、何に集中すべきかについて、人として、またリーダーとしてよく考えたということを繰り返し語っていました。

次に、ハル市のGail Teasdale氏は、HeadStart Hullという、若者のボランティアを活用した、若者を支援する取り組みについて説明しました。

この事業では、11歳から23歳のボランティアが運営に携わり、さまざまな役割を担っています。若者向け、子どもを育てる親向け、サービスを提供する専門家向けのコンテンツを整備し、それぞれが支援を得ることができるサービスへのアクセスや、新型コロナウイルスに関する情報、ボランティアへの参加による日常の充実など

について情報提供を行いました。特に、新型コロナウイルスに関する情報を提供し始めたところ、サイトの閲覧数が大幅に上昇したとのことです。



HeadStart Hullのボランティア参加者／出典：LGA年次総会資料 (Hull City Council作成)

## ウェビナー： 新型コロナウイルスの環境への影響

7月1日に開催されたウェビナーは、新型コロナウイルス感染症対策による環境への影響がメインテーマでした。

政府関係機関であるLocal PartnershipsのJo Wall氏は、「Green Reset」と題した講演において、「COVID-19のパンデミックにより、人々の態度や行動に重大かつ急速な変化があり、実現には何年もかかると考えられていた変化（二酸化炭素の削減）が、一夜にして実現した」と述べました。テレワークやウェビナーの急速な普及は、環境問題も解決できる方法で経済復興を目指そうという「グリーン・リカバリー」を推進するための基盤にもなります。在宅勤務によるオフィス利用の削減は、財政的な節約と二酸化炭素の削減につながります。今後

は、在宅勤務の普及に合わせて、住宅のエネルギー効率化を奨励する方法を見つける必要があり、以前のビジネスモデルに戻ることは避けるべきだと話されていました。

次に、気候変動に対して熱心に取り組む自治体のウォルサムフォレストおよびウィラルの職員からは、コロナ禍における大気汚染や二酸化炭素排出量の削減についての報告がありました。

ウォルサムフォレストでは、2013年から歩行者および自転車利用者に安全な道路を整備し、排気ガスによる大気汚染を改善することで、市民の健康維持につなげています。発表したClyde Loakes氏によると、コロナ禍では、自転車利用者が前年同月比で1.5倍に急増し、大気汚染が50%も改善されたそうです。

ウィラルのMike Cockburn氏は、コロナをきっかけとして、「新しい生活様式」を確立するとともに、日常生活や仕事において二酸化炭素排出量削減に取り組む上で必要となる知識や能力であるカーボン・リテラシーの普及を今こそ図るべきだと述べました。



自転車や徒歩での移動を推進するロンドン交通局の広告@ロンドン地下鉄駅構内

## 参加した感想

LGA年次総会が実施された6月末時点で、英国内で4万人の死亡者が確認されており、各自治体も新型コロナウイルスによる甚大な影響を受けています。それにも関わらず、これを契機として地域コミュニティを強化しよう、環境問題も一緒に解決しようといった前向きな議論が行われていることが強く印象に残りました。

また、社会的弱者に対しての一方的な支援ではなく、モチベーションを保つことの難しいコロナ禍で、誰かのために貢献できる場を提供するという視点も興味深く受け止めました。

執筆時点では、LGA年次総会開催時には落ち着いていた新規感染者数が再び増加し、第二波の真ただ中です。このような凄まじい逆境をもチャンスと捉える英国が、今後どのような変化をしていくのか、肌で感じていきたいと思っています。